

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立豊里小学校 学校協議会

1. 「全市共通目標」「学校の年度目標」に対する総括

【安全・安心な教育の推進】

日々の児童の様子を把握するために、教職員が情報の共有化を綿密に行った。気づきや違和感をすぐに共有することで、初期対応やチームで分担して子どもに関わるようとした。場合によっては、校内全体で周知して、学校全体が対応できるようにした。その成果もあり、対応に苦慮する案件もなく、学校が安心して過ごせる居場所になっている。また、スペシャルサポートルームが設置され、不登校児童、不登校気味児童の登校の割合改善につながった。いじめ対応は「いじめアンケート」を行いながら、初期対応をめざした。「いじめはいけない」と答える児童も高められた。児童理解のみならず、子どもの思いや考えを自然と出せる関係づくりのために、教職員から児童への日々の声掛け、学級活動、児童会活動、学校行事案件にも児童が参画できるように努めた。実態把握のアンケートもを行い、様々な視点からの情報を受け止められるように努めたことで不登校児童の割合も少しづつであるが減少している。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

今後の未来を担う人材育成のためにも、教育の充実は必要不可欠である。大人は「学び」は必要であると根気強く子どもたちに伝え続けている。個々の実態把握に努め、担任、サポーター、専科教員などが連携して個別指導などの工夫を施した。すべての児童の状況を把握し、個々に合うように教材作成や声掛けを丁寧に行った。児童間同士の交流の充実も工夫され、主体的に教育活動ができるように指導方法の工夫を施しながら取り組んだ。一人一台端末を活用することで、交流方法の幅は大変広げることができた。研究の柱に取り入れて全教職員が討議や研修を繰り返し行い、指導力向上に努めた。

創立 150 周年の取り組みを目標に声を出す経験をすることができた。「できること」が増えた今年度の取り組みは、次年度にも継続して行う。児童間同士の学び合いの機会も増えることで、国語、算数、英語のみならず、すべての学習や活動の力が向上すると考える。健康的な生活習慣、運動能力を維持するためにも、かけあし、なわとびなどの基礎体力づくりを実施、さらに教員も児童とともに運動を楽しむことで、経年調査の結果では「運動をすることが好き」と答える児童の割合も維持できている。

【学びを支える教育環境の充実】

ここ近年では、一人一台端末を「つかいこなす」児童が増えてきた。以前は調べ学習中心であったが、今ではデジタルドリル、画像の編集、発表データ作成、児童間のアンケート調査など多岐にわたる。今年度は全ての学年が1 学期から一人一台端末に慣れ親しむ教育活動を行うことができた。教職員の研修会も実施され、知識の共有を図りながら日々指導力向上に向けて取り組んでいる。また、校務においても端末処理がほとんどである。教職員も使いこなすことで、業務にかける時間も減少できるようになっている。

子どもが日々元気に過ごすためには、教職員も心身共に元気で過ごせることも大切である。「ゆとりの日」の設定は業務終わりの時間も意識できたり、勤務が終わってから自身の健康維持ができたりすることができる。学校行事などは時間超過してしまうこともあるが、「ゆとりの日」や長期休暇3日以上の設定や4~5時間以上の超過勤務を減らすことは意識付けられてきている。令和5年度より超過勤務者の割合も下がってきている。安心できる職場づくりにつなげるために、この取り組みを継続して行っていく必要がある。

以上の視点から、本校の目標にあげた項目においては適切であったと考える。これらの取り組みを今後も継続していくことで学習面、生活面での安定につながっていく。そのために、学校行事の在り方や、時代（地球温暖化も含め）に合った内容にしていくことは必要不可欠である。また、誰一人として取り残さない学校にするために、より一層の児童理解を図り、個々に「つけたい力」を明確にして指導力向上に向けて取り組む必要があることを課題とする。

2. 「全市共通目標」「学校の年度目標」の達成状況（保護者・児童アンケート等の結果）

【安心・安全な教育の推進】（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 令和6年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83.4%で目標を上回ることができた。
- 令和6年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率2.1%となり、前年度の2.2%から減少させることができた。
- 令和6年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合が92%となり、目標を上回ることができた。
- 令和6年度末の校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合が86%となり、前年度の67%より向上させることができた。

学校園の年度目標

- 学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目において、最も肯定的な回答の割合は、83%と目標である80%を上回った。
- 校内調査における「学校のきまりやルールを守っている。」の項目において、肯定的な回答の割合は、92%で目標である78%を上回った。
- 校内調査における「自分には良いところがある。」の項目において、肯定的な回答の割合は、86%で目標である67%を上回った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が41%となり目標を上回ることができた。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度（国0.92 算0.94）より国語科は3学年、算数科は1学年上回った。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%で目標を下回った。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が65%で目標を上回ることができた。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合が92%で前年度の93.5%から下回った。

学校園の年度目標

- 学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができます。」の項目において、最も肯定的な回答の割合は、41%と目標である29%を上回った。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、前年度より国語は3学年、算数は2学年向上した。
- 学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好き。」の項目において、肯定的な回答の割合は、78%で目標である80%を下回った。
- 学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好き。」の項目において、最も肯定的な回答の割合は、65%と目標である58%を上回った。
- 学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか。」の項目において、肯定的な回答の割合は、92%で目標である93.5%を下回った。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の73.4%と目標を上回った。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（超過勤務45時間未満）を満たす教員の割合が90%と目標を上回った。

学校園の年度目標

- 「授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数の割合」は、4月から1月では平均68.6%で、授業日の50%以上で学習用端末を活用することができた。
- 4月から1月の勤怠状況において、超過勤務45時間未満の教職員の人数の割合は、90%より高く目標の65%を上回った。

3. 学校関係者評価

- ・「運営に関する計画・最終評価」における、自己評価結果は妥当である。その結果を「学校関係者評価」として承認する。
- ・地域と学校との取り組みを少しずつ戻し、来年度は中学年から実施再開が決まって良かった。
- ・多岐にわたって様々な経験がないことから、学力や読解力、体力等課題がみられた。来年度行事等に組み込んで取り組みをすすめてほしい。
- ・一人一台端末の活用、双方向通信も取り入れながら、学習方法の試行錯誤の工夫を繰り返している。また、児童への視聴覚支援の必要性について、今後も効果的な活用方法について研究を進めていく。多様な視点でICT教育を導入していくよう教職員の努力に期待する。
- ・豊里小学校は教職員が団結し、子どもの教育に懸命に取り組んでいる。今後も子どもたちのために教職員一丸となって力を注いでいくことを期待する。
- ・不登校児童対策も継続して取り組んでほしい。
- ・取組の継続化、さらなる小中連携の充実に向けて計画的に進めていくことを期待する。